

## 巻 頭 言

学校教育法等の改正を受け、盲・聾・養護学校の制度から特別支援学校の制度への移行が行われて7年が経過しようとしています。障がいのある児童生徒に対して個々のニーズに応じた質の高い教育的支援を進めていくためには、一人一人の障がいの程度、状態等に応じた専門的な指導や支援を確保することが、より一層重要になってきています。

これまで本校は、肢体不自由児の特性に基づく適切な指導を担保するために、教員に必要な研修を体系化して、専門性の向上に努めてきました。しかしながら、教員の異動や限られた校内研修等により教育水準の維持・向上を図ることの難しさが、長年のテーマでもありました。ここ数年、本校は県内一児童生徒の障がいの程度が重症化・複雑・多様化し、より一層授業や学校行事において「安全・安心」が求められるとともに、一人一人の可能性を伸ばす教育のあり方が課題となってきています。そこで、外部の専門家を積極的に導入し、関係機関(医療・福祉・労働等)との連携を強化することによって、肢体不自由児や重症心身障がい児の正しい理解を深め、確かな指導方法を学ぶ必要がありました。私たちは、指導内容を精選するとともに、実践をとおして評価し修正を加えながら学びを積み上げていく取組をめざしています。児童生徒の命を守り、発達を支えるプロフェッショナル集団に生まれ変わることを信じて、道半ばではありますが真摯に取り組んできた次第です。

ただし、どんなに立派な理念や目標を唱えても、教育実践をとおしてしっかり検証しなければ本校の教育はよくなりません。教師が児童生徒と向き合う日々の授業が良くならなければ、児童生徒の成長や発達は望めません。また、児童生徒の成長や発達を促さない教育が必要とされるはずがありません。今日、学校教育の成果が厳しく問われるようになってきました。障がいの重い児童生徒の学習成果は、テストや検査等で評価することが難しいものです。一人一人の成長や発達の姿は、その実態から出発した授業に最もよく表れ、授業をとおして成長や発達が実現されていくはずです。私たちは授業の改善・充実によって、児童生徒の教育に託された期待に応えていきたいと思っています。

最後になりましたが、いつも本校の教育活動にご理解とご支援をいただいております徳島赤十字ひのみね総合療育センター園長橋本俊顕先生。安全で安心な自立活動の授業づくりに向けまして整形健診等でお世話になっております同センター副園長の阿部秀吉先生。本校の自立活動に対するコンサルテーションをとおして温かいご指導を頂いております同センターリハビリテーション課長の田首恵美子先生。姿勢や運動の基礎基本等をわかりやすくご指導いただいております乾幸子先生。摂食・嚥下指導やプレスピーチ等でお世話になっております野津真理先生には、心より感謝を申し上げます。紙面の関係で十分に紹介できませんでしたが、本務が大変お忙しいにもかかわらずご協力いただいております同センター医療・福祉・心理のスタッフの皆様、今後ともどうかご支援の程よろしく願い申し上げます。

平成26年 1月

校 長 川 田 人 包